

「信州の環境にやさしい農産物認証制度」への取り組み

J Aながのは、消費者の農産物に対する「安全・安心」や「環境」に対する関心が高まる中、各種法律（農薬取締法・食品衛生法・食品安全基準法）等の順守を基本に、「GAP（生産工程管理）手法」の実施、また、「ISO14001取得」（2001年）から「ISO14001自己宣言」へ移行（2010年）により、安全を確保し環境に配慮した持続的な農業生産を目指しています。

また、取り組みの一つとして「信州の環境にやさしい農産物認証制度」による特別栽培農産物の生産に生産者と共に取り組んでいます。

制度の概要

- ・地域の一般的な栽培方法と比較して、化学肥料及び化学合成農薬を50%以上削減して生産する農産物を認証し、認証された農産物には、県の認証番号が入った認証票（シンボルマーク）を付けることができます。
- ・認証は、長野県知事名で行います。
- ・審査は、有機JAS認証の登録認定機関である（財）長野県農林研究財団が行います。

認証区分及び認証基準

区分	基準等
50-50	化学肥料及び化学合成農薬について、「地域慣行施肥量」及び「地区農薬使用回数」50%以上を削減した方法で生産された農産物

※地域慣行施肥量及び地区農薬使用回数については、「長野県における当該農産物について慣行的に行われている化学合成農薬の使用回数及び化学肥料の窒素分量（地域慣行基準）」の基準を用いる。

地区農薬使用回数は、地域慣行基準に「有機農産物のJAS規格で使用可能な農薬」等を加味した延べ使用回数。

ミニトマト

認証番号：50-50-00109

申請者：JAながの 信濃町野菜部会 部会長 黒田久志

登録農産物

認証を受けようとする品目	ミニトマト
作型名	ハウス・雨除け
認証を受けようとする区分	50-50
栽培期間	2022年4月 ~ 2022年10月
収穫期間	2022年7月10日頃 ~ 2022年10月31日頃 (収穫日数 114日)
現地確認調査希望時期 (収穫開始直前)	2022年7月10日頃

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成分量(kg)				備考
	N		P	K		窒素		リン酸	加里	
	有機 由来	①				うち化学 由来	②/100*⑤			
②	③	④	⑤	①/100*⑤	(①-②) /100*⑤	③/100*⑤	④/100*⑤			
土壌の王	3	3	4	2	240	7.2		9.6	4.8	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	80	14.4	14.4	3.2	6.4	
ハイ磷マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2		
合計 (kg/10a)					380	22.2	a 15	26	11.2	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 30				
低減率(%)							100-(a b*100)% 50.0%			

農薬使用の計画

対象作物：ミニトマト

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)
殺菌剤	Zボルドー	500	1	4	4	4	
	ベルコート水和剤	6000	1	2	2		
	トリフミン水和剤	3000	1	2	2		
	アフェットフロアブル	2000	1	2	2		
					0		
					0		
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1g/株	1	1	1		
	モスピラン顆粒水溶剤	2000	1	2	2		
	アファーム乳剤	2000	1	2	2		
	ベストガード水溶剤	1000	1	2	2		
	フローバックDF	1000	1	2	2	2	
					0		
					0		
					0		
除草剤					0		
					0		
植調剤					0		
					0		
				合計	19	6	

地区慣行回数

区分：ハウス雨よけ

	地域慣行農薬使用回数(D)	
収穫開始前	13	
収穫期間中使用回数	16	(b) × (x) で算出
植調剤	1	
除草剤	1	
合計	31	

(b): 収穫期間中週当使用回数

(x): 収穫週数(収穫日数/7 小数点第1位まで)

農薬の使用回数(A)-(B)	13
地区農薬使用回数(C)+(D)	31
削減率	58.1

トマト

認証番号：50-50-00110

申請者：JAながの 生果トマト部会 部会長 外谷 二四二

登録農産物

認証を受けようとする品目	トマト
作型名	ハウス・雨除け
認証を受けようとする区分	50-50
栽培期間	2022年4月 ~ 2022年10月
収穫期間	2022年7月10日頃 ~ 2022年10月31日頃 (収穫日数 114日)
現地確認調査希望時期 (収穫開始直前)	2022年7月10日頃

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)				備考
	N		P	K		窒素		リン酸	加里	
	有機 由来					うち化学 由来				
①	②	③	④	⑤	①/100* ⑤	(①-②) /100*⑤	③/100* ⑤	④/100* ⑤		
土壌の王	3	3	4	2	240	7.2		9.6	4.8	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	80	14.4	14.4	3.2	6.4	
ハイ燐マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2		
合計 (kg/10a)					380	22.2	a 15	26	11.2	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 37				
低減率(%)							100-(a b*100)% 59.5%			

農薬使用の計画

対象作物：トマト

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)
殺菌剤	ランマンフロアブル	2000	1	3	3		
	コサイド3000	1000	1	2	2	2	
	アミスター20フロアブル	2000	1	2	2		
	ベルコート水和剤	3000	1	2	2		
	アフエツフロアブル	2000	1	2	2		
						0	
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1g/株	1	1	1		
	ベストガード水溶剤	1000	1	1	1		
	モスピラン顆粒水溶剤	2000	1	1	1		
	プレオフロアブル	1000	1	2	2		
	フローバックDF	1000	1	3	3	3	
	アフアーム乳剤	2000	1	1	1		
	プレバゾンフロアブル5	2000	1	1	1		
						0	
除草剤					0		
					0		
植調剤	トマトーン	50~100	1	1	1		
					0		
合計					22	5	

地区慣行回数

区分：ハウス雨よけ

	地域慣行農薬使用回数(D)	
収穫開始前	13	
収穫期間中回数	19	(b)×(x)で算出
植調剤	1	
除草剤	1	
合計	34	

(b): 収穫期間中過当使用回数

(x): 収穫週数(収穫日数/7 小数点第1位まで)

農薬の使用回数(A)-(B)	17
地区農薬使用回数(C)+(D)	34
削減率	50.0

ピーマン

認証番号：50-50-00111

申請者：JAながの 信濃町野菜部会 部会長 黒田 久志

登録農産物

認証を受けようとする品目	ピーマン
作型名	露地栽培
認証を受けようとする区分	50-50
栽培期間	2022年4月 ~ 2022年11月
収穫期間	2022年7月1日頃 ~ 2022年10月31日頃 (収穫日数 123日)
現地確認調査希望時期 (収穫開始直前)	2022年7月1日頃

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)				備考
	N		P	K		窒素	リン酸	加里		
	有機 由来	②							うち化学 由来	
①	②	③	④	⑤	①/100* ⑤	(①-②) /100*⑤	③/100* ⑤	④/100* ⑤		
土壌の王	3	3	4	2	300	9.0		12.0	6.0	
野菜N450号	14	0	15	10	20	2.8	2.8	3.0	2.0	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	60	10.8	10.8	2.4	4.8	
ハイ磷マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2		
合計 (kg/10a)					440	23.2	a 14.2	30.6	12.8	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 35				
低減率(%)							100-(a b*100) % 59.4%			

農薬使用の計画

対象作物：ピーマン

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)
殺菌剤	カスミンボルドー	1000	2	3	6	6	
	ランマンフロアブル	2000	1	1	1		
					0		
					0		
					0		
					0		
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1g/株	1	1	1		
	モスピラン顆粒水溶剤	4000	1	2	2		
	フローバックDF	1000	1	2	2	2	
	ベストガード水溶剤	2000	1	1	1		
	アーデント水和剤	1000	1	1	1		
	アディオオン乳剤	2000	1	1	1		
					0		
					0		
					0		
					0		
除草剤					0		
					0		
植調剤					0		
					0		
				合計	15	8	

地区慣行回数

区分：露地栽培

	地域慣行農薬使用回数(D)	
収穫開始前	8	
収穫期間中使用回数	17	(b) × (x) で算出
植調剤	0	
除草剤	1	
合計	26	

(b): 収穫期間中週当使用回数

(x): 収穫週数(収穫日数/7 小数点第1位まで)

農薬の使用回数(A)-(B)	7
地区農薬使用回数(C)+(D)	26
削減率	73.1

なす

認証番号：50-50-00112

申請者：JAながの 信濃町野菜部会 部会長 黒田 久志

登録農産物

認証を受けようとする品目	ピーマン
作型名	露地栽培
認証を受けようとする区分	50-50
栽培期間	2022年4月 ~ 2022年10月
収穫期間	2022年7月10日頃 ~ 2022年9月30日頃 (収穫日数 83日)
現地確認調査希望時期 (収穫開始直前)	2022年7月10日頃

肥料の施用計画

種類・名称	成分比(%)				施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)				備考
	N		P	K		窒素		リン酸	加里	
	有機 由来	②				うち化学 由来	①-② /100*⑤			
①	②	③	④	⑤	①/100* ⑤	(①-②) /100*⑤	③/100* ⑤	④/100* ⑤		
土壌の王	3	3	4	2	300	9.0		12.0	6.0	
野菜N450号	14	0	15	10	20	2.8	2.8	3.0	2.0	
野菜追肥N30号	18	0	4	8	60	10.8	10.8	2.4	4.8	
ハイ磷マグ	1	0	22	0	60	0.6	0.6	13.2		
合計 (kg/10a)					440	23.2	a 14.2	30.6	12.8	
地区慣行施肥量(kg/10a)						b 35				
低減率(%)							100-(a b*100) % 59.4%			

農薬使用の計画

対象作物：なす

	使用農薬名	倍率	有効成分数	散布回数	成分カウント(A)	除外カウント(B)	慣行回数への付加カウント(C)	地域慣行農薬使用回数(D)
殺菌剤	アミスター20フロアブル	2000	1	2	2			12
	パンチョTF顆粒水和剤	2000	2	1	2			
殺虫剤	アドマイヤー1粒剤	1~2g/株	1	1	1			9
	モスピラン顆粒水溶剤	4000	1	2	2			
	アフアーム乳剤	2000	1	2	2			
	プレオフロアブル	1000	1	1	1			
	フローバックDF	1000	1	2	2	2		
除草剤							1	
植調剤								
クレフノン等								
				合計	12	2	0	22

農薬の使用回数(A)-(B)	10
地区農薬使用回数(C)+(D)	22
削減率	54.5